自分の考えを確認しながら読む

――「走れメロス」（二年）――

新しい指導を考える会

1 文学作品を読み進めながら「考える力」を高める

本校の図書館の利用状況を見ると、ファンタジーなど気軽に読める作品の貸し出しは多いが、近代小説の棚は、ほとんど動きがない。その理由としては、言葉のハードルの高さが考えられる。近代小説の中の言葉は、中学生にとって古典と変わらないのである。だからこそ、国語科の授業で近代小説を教材として読み、豊かな感情と結びついた美しい言葉を学ばせたいと思う。さらに、登場人物の心情や書き手のものの見方や考え方について、自分の知識や経験と関連付けることによって、小説を読む楽しさを実感させたい。教材をこのように読むことで、主体的な読書活動につなげることが可能になると考える。

2 実践のポイント（全5時間）

「走れメロス」は長年にわたって教科書に掲載されているたいへんなじみ深い作品である。教科書では、絵も含めて十七ページほどの短編であるが、中学生にとっては、読むだけで概ね一単位時間（五十分）かかってしまうため、そう簡単に読みこなせる作品とは言い難い。

「走れメロス」は、登場人物、描写や表現、場面設定など、さまざまな視点から指導したい作品である。しかし、今回は、学習者の実態から、「自分の考えを確認しながら読む」という学習過程を考えた。一斉授業の場合、ともすると「人任せ」になりがちな読みを、「自分として」はどう読むのか、ということを確認しながら読み進めるのである。また、随時、読みの交流をしながら自分の読みを広げたり深めたりしていく。そのように読み進めることによって、より主体的に自分の読みを形成していくことが可能になると考えたのである。

なお、限られた時間の中で、効果的に読みを進めるために、学習シートを工夫した。ストーリーを把握するには、かなり粗々であるが、「自分の考えを確認しながら読む」ためにポイントを絞った。

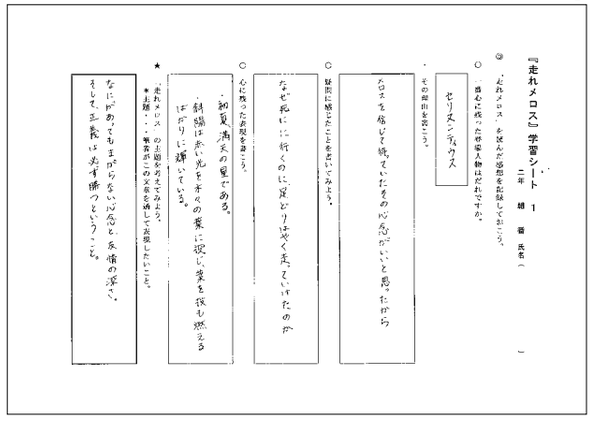
学習シート①では、初読後最も印象に残った登場人物を記入させた（2時間目）。その際、「なぜその人物が心に残っているのか」という理由を書かせた。ここが本実践のポイントである。学習後にもう一度、同じ内容で記述させている。たとえ、「心に残った人物」が同じでも、「その理由」に記述された内容は変化するはずである。文章を主体的に考えながら読み進める中で、より深く登場人物の心情や生き方に迫ることができ、自分の考えが鮮明になってくるからである。

学習シート②は、文章を読み進める際に使用した（3・4時間目）。短い時間でストーリーを把握するために、書き込み式のシートを用意した。臨場感を持たせながら読み進め、最後の場面のメロス・セリヌンティウス・王の心情を自分なりに読み取ることができるよう工夫した。また、読み進めながら感想を交換する際には、「なんとなく」そう思うのではなく、文章の内容や展開に根拠や理由を求めることで、文章から離れることを回避した。

3 実践を終えて

初読後と学習後に、いちばん心に残った登場人物について、理由を添えて書かせてみた。結果として「メロス→セリヌンティウス」など、取り上げる人物が変化した学習者もいれば、同じ人物を挙げた学習者もいた。しかし、ここで重要なことは、変化したかどうかではなく、「理由」の記述の変化である。例えば、メロスが心に残った学習者の理由は、「勇気がある」から「いくつもの障害を乗り越えて約束を守り、王の気持ちを変えた」というように深まっていった。また、「この学習を通して考えたこと」の欄には「信じられているという自信がある関係は強い」というように、考えを一般化して記述している学習者が多く見られた。また、「だから私も～」と自分の生き方に結びつけて記述している学習者もいて、「自分の考えを確認しながら読む」ことで読みを深めることができることを確認できた。

▼学習シート①



『走れメロス』学習シート 1　二年　組　番　氏名（　　）

①「走れメロス」を読んだ感想を記録しておこう。

○ 一番心に残った登場人物はだれですか。

セリヌンティウス

・その理由を記そう。

なぜ王に殴られたことを告げたのか

○ 疑問に感じたことを書いてみよう。

なぜ王に対して心を開いたのか

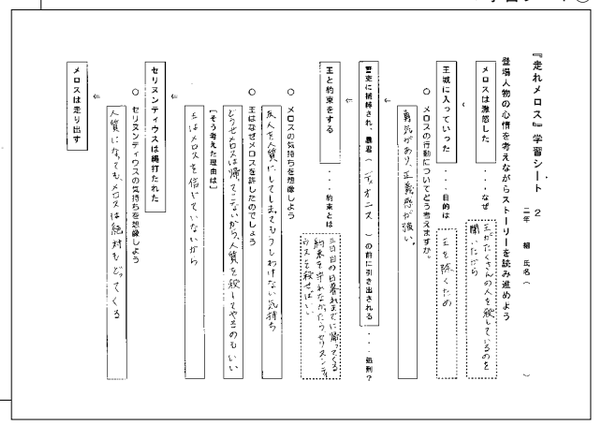
○ 心に残った表現を書こう。

・初夏、満天の星である。
・斜陽は赤い光を木々の葉に投じ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている。

★「走れメロス」の主題を考えてみよう。
★主題：…教室が一つの文章を読んで共感したり、考えたりしたこと。

なにがあっても走りぬいた心と、友情の深さ。
そして正義は必ず勝つということ。

▼学習シート②



『走れメロス』学習シート 2　二年　組　番　氏名（　　）

登場人物の心情を考えながらストーリーを読み進めよう

メロスは激怒した　…なぜ　王が人々を殺しているのを聞いたから

王城に入っていった　…目的は　王を殴るため

○ メロスの行動についてどう思いますか。

勇気がある。正義が強い。

豊かに植林され、農家（ハラオス）の四方に known される　…前例から

王と約束をする　…前提とは　約束を守るためにうそをついてもいい

○ メロスの妹君を想像しよう

友人を質にしてしまうようなわるい兄だち

○ 王はなぜメロスを許したのでしょう

どうせメロスは帰ってこないから人質を殺してやるのもいい

（そう考えた理由は）

それはメロスを信じていないから

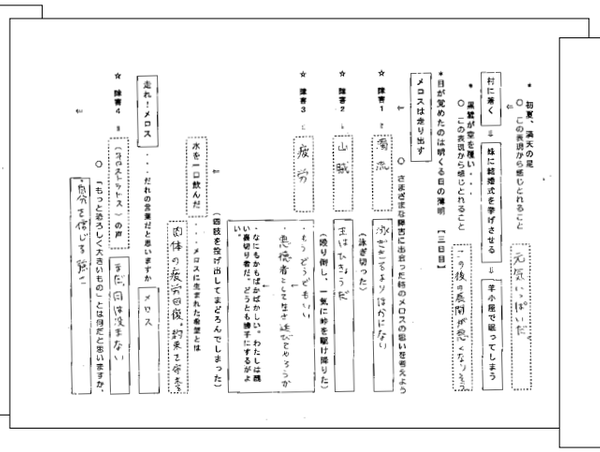
セリヌンティウスは縛打たれた

○ セリヌンティウスの気持ちを想像しよう

人質になってもメロスは絶対もどってくる

メロスは走り出す

▼学習シート②



メロスは際に会った　…最後の一日の様子も加えようとしたときメロスは疲労のこと激しい気場に突入した。

セリヌンティウスの顔はなぜかれた

セリヌンティウスとメロスは互いに抱き合った

○ なぜお互いの名を叫び合ったのでしょう。

反だちにうそをついてなかったから

それを見ていた王は…　（前方を歩手かし思た。）

○ なぜ王は「おまえらの仲間の一人にても入れてほしい」と言ったのでしょう。

「信じ合うことができる友情がほしいと思ったから」

「走れメロス」を読んで一番心に残った登場人物はだれですか。

セリヌンティウス

○ その理由を書きましょう。

「最後までメロスを信じてきたからすごく思い。すごく仲のよい友達でも私だったら、セリヌンティウスの様はおき受けないと思う。

「走れメロス」を読んで考えたことを書きましょう。

人を信じることは大切なことだと思った。友達をうたがってしまうことがあります。そのからは、自分が相手を信じる。